第１回柏市地域生活支援拠点運営協議会議事録

日時：平成３０年６月２７日（水）
１４：００～１５：３０

１　会長及び副会長選任
　会長　：社会福祉法人青葉会　　松井氏
　副会長：社会福祉法人　彩会　　橋本氏
　両名を選任した。
※会長は地域生活支援拠点運営協議会の代表として自立支援協議会の委員として推薦する。

２　各拠点からのの報告
≪たんぽぽ≫
　実際に短期入所や緊急受け入れについては，訪問看護のみで入っていた人たちの受入れが多くなっている。訪問看護で関わり続けていた人たちが,看護スタッフが当直で入っているというきっかけで,ショートステイを使ってみるということができるようになったので,親御さんも何かあったらショートステイを使えるということで，長年引きこもっていた人も少しずつ出てこれるようになったりしている。
　相談支援に関しては，委託の件数が増え続けている状態なので，即座に対応できていないケースがあるかもしれない。断らないというスタンスでやっているつもりだが，ニュアンスとしてお待ちいただくような対応であったり，断られたと思われることがあるかなと思うくらい電話が鳴りっぱなしの状況。

≪しょうなん≫
　拠点になったからといって特に変わったことはない。短期入所は柏市の方の利用で４～５月でおよそ５０名程度。緊急の線引きというのは難しいが，今日からと言われるようなケースは緊急として想定している。また，緊急は精神の方の利用が多い。
　これからは人材育成が必要で,最近では刑務所の見学も行ったが,

みんなと学び合い，先進的な取り組みをしていきたい。
　地域づくりに関しては，３年前くらい前から地域包括の方と話をしていて，圏域で協力してやっていきたいと思っている。
　うちの特徴としてジョブコーチを配置している。ハートフルワークからの紹介や，ビッグハートが忙しくてなかなか対応できてない人たちに対してジョブコーチとして就労支援に継続して取り組んでいる。

≪あおば≫
　自閉症の事業から入ったこともあり，自閉症の利用者，行動障害の利用者が多い。
　あおば，たんぽぽ，しょうなん，これからできるぶるーむ，それぞれ守備範囲が違う。実際にはまだ連携らしい連携はできていないが，顔は知っているので，得手不得手の部分を話し合いながら，できるところからやっていきたい。
　また，今までの緊急の受入れのハードルが下がっている。利用はこどもが多いのが特徴。必ずしも全部を受け入れられるわけではない。ただ，連絡を受けたらコーディネートをして最後まで責任を持つようにしている。職員も消極的になることはあるが，そこは厳しく指導している。

≪ぶるーむ≫
　ぶるーむの風について。地域生活支援拠点事業として実施予定。定員７名の重症心身障害者・医ケア者を主に対象としたグループホーム，ショートステイ３床，診療所・訪問リハの併設を検討している。法人の特徴として，医ケア児者を多く受け入れている。現在８名の看護師がいるが，最近医療依存度の高い利用者が増えてきている。もちろん通所として通うことは，保護者としても利用者としても外出の希望があれば望ましいので８名の看護職員を雇用しているが，医師がいない，病院ではないため看護師が全ての責任，全ての判断等を行わなければならず，尻込みしているような状況。そのような状況で法人としてどうしてもセットで診療所を運営したいと考えている。

ヘルパーステーションについても今あるものをぶるーむの風に移設し，緊急の相談，訪問に対応できるが，ハイリスク家庭であるとか専門職が必要であると判断した場合にはヘルパーもしくは訪問看護の看護師が相談支援員とセットで動くことでショートステイ１泊を伴わない，一時的にヘルパー等が滞在することで解消する内容であればそのように対応させていただく。それで対応できないときはぶるーむのかぜでショートステイで対応させていただくイメージをもっている。

３　今後の運営について

今年度は年に３回程度の開催を予定している。次回は１０月の予定。

運営協議会の所掌として「拠点の設置計画」と「拠点の事業内容」について検討することとなっているが，前者はノーマライゼーションかしわプランの着実な推進とし，次回以降は事業内容について意見交換し，拠点の円滑な推進に努めていくこととする。

以下，フリーで意見交換

その中で,共通したキーワードとして,広報や緊急に対する対応，相談の地区割り，拠点の信頼感などが挙げられた。

＜拠点のあり方について＞

次に，提案のあった意見を抜粋した。

気になるのは,「拠点なのに」という言葉。できること・できないことはあっても，ある程度の理念や緊急への対応ぶりを共有し、拠点間はもちろん,相談支援事業所とも連携していかないと,「拠点なのに」というセリフはこの先消えないのかなと。

適切な支援ができる環境かどうかというところでは，土日・夜間というのはフルオープンではないので，本人が選択するには不利な状況である。その時には受け止めて，有利な状況で選択させてあげたいというのは，拠点の役割だと意識している。

例えば，次の日の診療時間までの居場所を提供してくれる存在として拠点がいてくれればありがたいし，入所施設やＧＨは３６５日２４時間なので，そこを色としてそれぞれ教えていただければわかりやすいと思った。

拠点の方向性が定められない。地区割りにして地域づくりをしていくのか。

高齢者の地域包括とは違って，地域包括は相談だけだからエリア分けができている。そこが明らかに違う。

現状では地区割りというのは目安であり，その地区の人しか受けないというのは市として想定していない。それぞれの地区ごとに身近にあるということは，利用者にとっては大事なこと。近くに拠点があるが，他のところも使っていいような，地区についてはゆるい感じで想定している。

拠点は地域生活を支援するための社会資源を増やしていく活動なので，拠点だけでするのではなく，柏市全体の地域生活支援の推進に貢献してほしい。